

<メディアウオッチ> フリー記者締め出し 「開店休業」続く外相記者会見 上出 義樹

「政治主導」や「情報公開」を掲げ政権交代した民主党の「目玉」の一つでもあった外務大臣の「オープン」記者会見の雲行きが怪しくなっている。最近の玄葉光一郎外相会見は、10月4日を最後に8回も続けて中止か、国会内でのぶら下がり会見となり、国会記者証が発行されないフリーの記者らが事実上締め出されるという異常な事態が続いている。

「オープン化」の初心忘れたか

外相の記者会見は原則、閣議がある毎週火、金の午後3時から外務省の会見場で開かれることが2年前、当時の岡田克也外相によりルール化。同省のホームページにも明示されている。

岡田氏は、他省庁に先駆けて大臣記者会見を「オープン化」し、一定の条件付きながらフリーランスや雑誌・ネットメディアなどの記者にも門戸を広げた。

定例の大臣会見を午後にかけているのは現在、外務省だけ。午後の記者会見開催には、筆者（上出）を含めたフリーの記者らが、主として午前中に開かれる他大臣の閣議後会見とも掛け持ちができるなど、取材の機会が広がるという大きなメリットがある。

国民への「情報公開」も中断

ところが、玄葉外相はなぜか、この会見開催の「ルール」を無視。直近の11月1日の会見を含めこの1カ月ほどは、フリーの記者が参加しにくい国会内での午前中の会見しか開いていない。記者会見での質疑応答はこれまで外務省のホームページに毎回掲載されてきたが、短時間のいわゆる「ぶら下がり」会見が続いたためか、最近の数回分の会見内容はHPにも全く掲載されず、国民への「情報公開」の点でも見過ごせにできない問題と言える。

正式会見の中断は、「安全運転」最優先の野田政権下で、玄葉大臣の失言を恐れる官僚の「入れ知恵」との見方も聞かれるが、もしそうなら、世界を相手にすべき外相としてはあまりに情けない。というよりは、大臣「失格」である。

もうひとつ、大手メディアが加入する「霞クラブ」（外務省記者クラブ）も、フリー記者だけの問題として傍観するのではなく、国民の知る権利にも関わる報道全体の問題として、大臣への抗議など、しっかりと声を上げてほしい。

（かみで・よしき） 北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院（新聞学専攻）在学中。